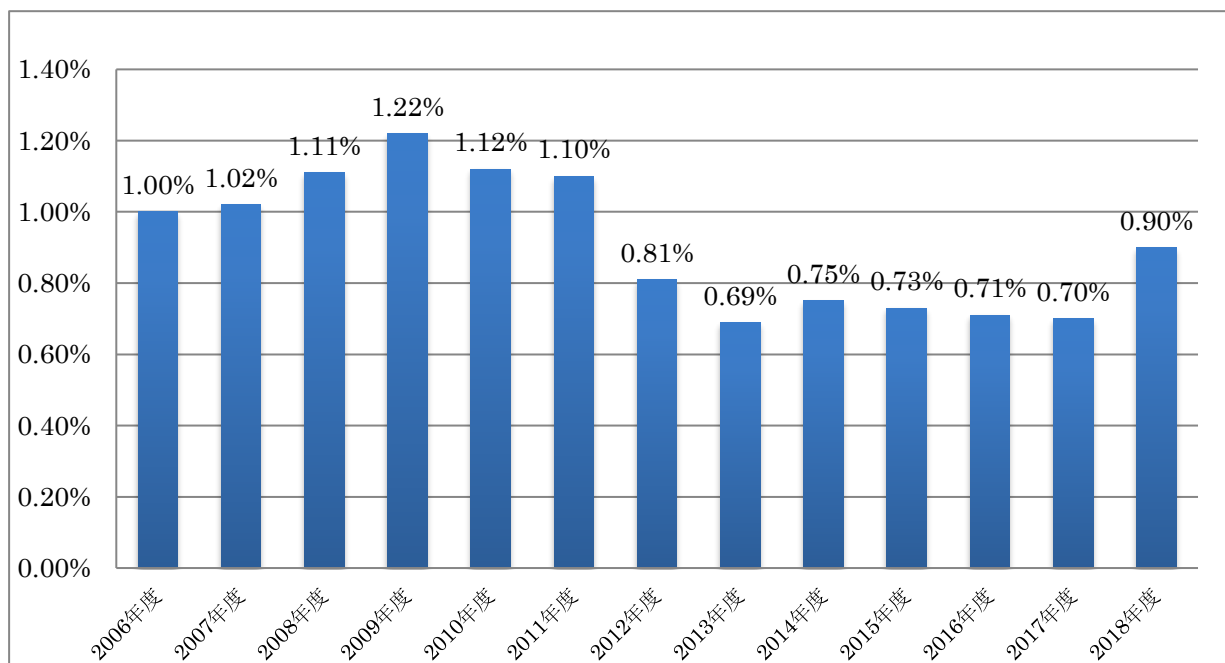


7. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL 低下を招き在院日数の長期化や医療費の増大につながるため、医療・看護・ケアにおいて重要な評価指標となる。褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により積極的な予防策・早期治療・ケアが行われ、重症化する患者は減少している。また、褥瘡発生の危険性が高い患者に対し皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで各病棟の意識や技術の向上を図ることができるようになってきた。褥瘡発生率は2008年度を境に徐々に減少したが、発生率は1%を下回ることにはなかった。そこで褥瘡回診の方法を見直し、褥瘡保有患者が多い病棟を集中的に回診、体圧分散マットレスの供給率を基に高機能エアーマットレスを購入した。さらに勉強会では病棟のニーズに合わせ、実践で役立つ内容を取り入れた。その結果、2012年度以降の発生率は1%を下回り、現在も維持できている（2016年度全国平均0.94% 日本褥瘡学会HPより）。これは実務委員会の活動の成果とともに看護師の褥瘡対策における継続的な努力によるものと考えられる。現在は発生率の維持と更なる質向上を目指し、褥瘡対策の現状を部署を超えて把握し共有できるよう努めている。また、病棟の褥瘡担当看護師が褥瘡回診に同行し、部署ごとに活動目標と計画を立てて取り組むなど、教育にも力を入れている。年9回の褥瘡勉強会では病棟のニーズを取入れ、全部署で共有すべき褥瘡発生事例の検討会や褥瘡回診時の状況をフィードバックしている。

今後も褥瘡発生率の低下を目指すとともに褥瘡ケアの質向上に向け、積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 褥瘡対策実務委員会
看護部 公衆衛生看護科